

次世代シーケンサーデータの 解析パイプライン構築

大阪大学 微生物病研究所 松本悠希

目的 次世代シーケンサーから出力されるデータは膨大であり、解析には多大な計算資源を要する。そこで共同研究用に次世代シーケンサーデータの解析パイプラインを構築し、計算資源のバックアップとしての利用検討を行う。

内容 OCTOPUS上で実行可能な解析環境を構築し、解析を行った。

結果 我々が独自に導入している計算機群と同様の解析環境を、OCTOPUS上に構築・実行できることが確認できた。一方で、共同利用していることから来るジョブ実行までの待ち時間や、ストレージやジョブ管理における差異についてはユーザ側で対処する必要があることが分かった。

利用した計算機	OCTOPUS
ノード時間	0.0
使用メモリ	-
ベクトル化率	-
並列化	-